

春彼岸の旅

寒さが緩んで 過ごしやすくなる
嵩張る外套 着ていくこともなく
雪のないところへ 出掛けてみよう
準備もそこそこ 気軽な旅だ

昼と夜の長さ 同じになり
明るくなった夕方散策できる

つくしが顔出す土の道を
厚底の靴で踏み締める
冬の間鈍った五感が
よみがえる嬉しさ 感じる

桜の開花が 聞こえ始めてくる
そういえばあの頃 別れる人たちと
ブルーシートに 紙皿並べて
冷たいお酒 交わしたのを思い出す

暖かい陽射し時々陰るたび
砂混じりの風首すくめ
目をつぶらせる

木蓮の花咲く古びた茶屋に
駆け込むように逃げ込む
ぼたもちこし餡 目の前の皿で
和菓子ナイフつつく ひととき